

※出品資格が変わりました。
また、半切の横が可能になりました。ご活用ください。

- 出品資格：一般初段以上および高校生。●用紙サイズは半切縦か横、角半のいずれか。
- A・B課題は同時出品可能。同時出品の場合は出品券の下部にA・Bを明記すること。
- 条幅出品券を作品の右下に必ず貼付すること。(作品の裏右下には鉛筆で段位と氏名も忘れず記入)

皆さんの作品を拝見して、せっかく縦・横・角半作品を出品できるのですから、半切縦作品が大半なので、もっと違うものに挑戦してほしいと感じました。紙の寸法が違うと変体仮名の使い方や、流れが変わってきます。でもそれが勉強になるのです。苦心すると力がつくのです。それぞれの生活の中で、お忙しいとは思いますが、「当に三余を以てすべし」。「三余」とは、一年の余りである冬、一日の余りである夜、時の余りである雨の日のことです。時間がないと嘆かず、時間は自分で作り出すもの。有効に使うのも自分。毎月の作品も、あつという間に締切がやってきます。そんな中で並行して水明展の作品も仕上げられて、今頃はホッとされているのではないでしょうか。

かな部 次号課題

A しんかんと心寂しくなりにつ

日あたり明き路ゆきにつ

(前田夕暮)

・心の奥深く、深閑と寂しくなってきた。日のあたって明るい道を歩きながら。

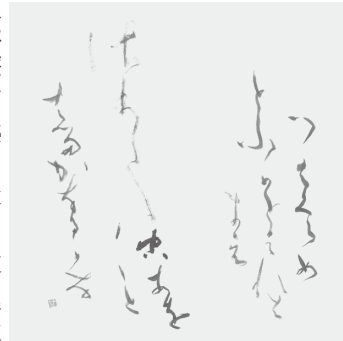
B 立秋の鏡の中に風が吹く

(橋本寅男)

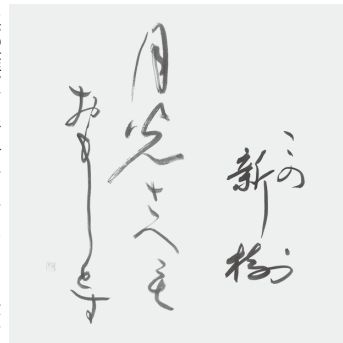
・部屋の鏡に涼しげにそよいでいるのがみられる。風が吹いているのだ。あ、今日は立秋であった、と思うのである。

優秀作品

〈師範・準師範の部〉

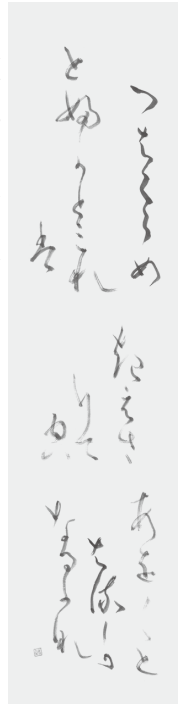


小林緑萱 紙面を大きく使い安定感がある。



服部籬東 斬新で思い切った作。

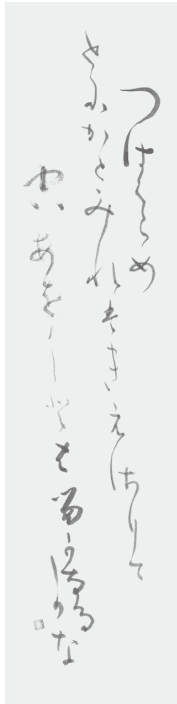
〈修士以下の部〉



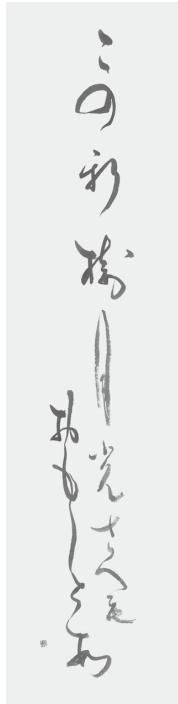
徳本欣吾 三段を自然によくまとめた。



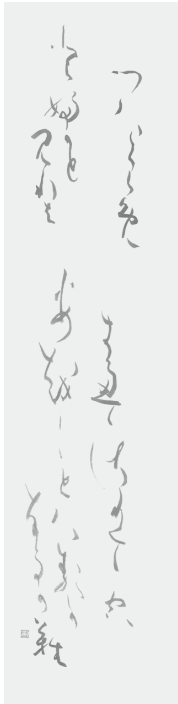
川嶋冷子 安定感があり重厚な作。



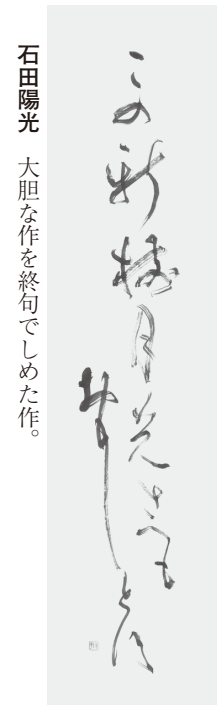
小野内亜希子 穏やかにそつなくまとめている。



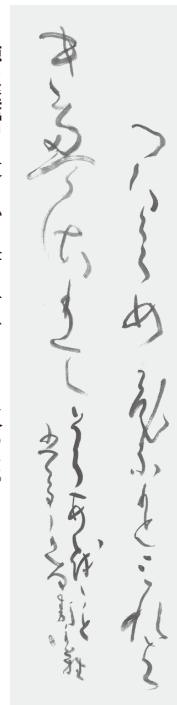
西嶋青暎 伸び伸びとした筆使いで手慣れている。



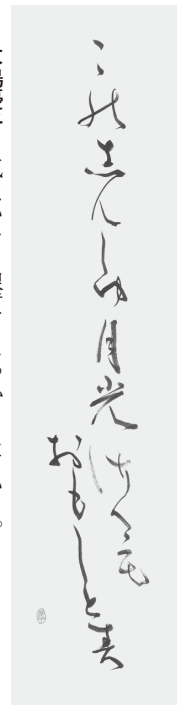
折田益美 上下に分けたチラシで温雅な作。



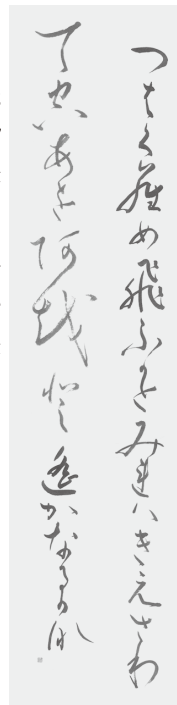
石田陽光 大胆な作を終句でしめた作。



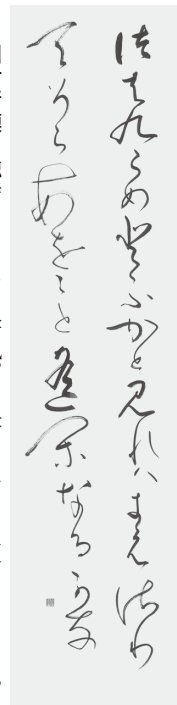
徳永溪雪 大らかな書き方でうまく収めた。



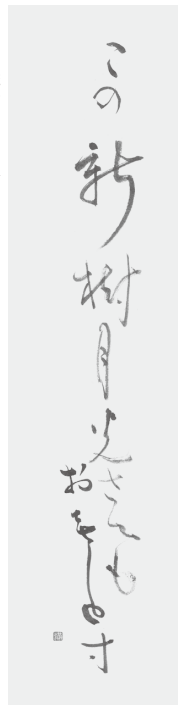
大嶋優子 気負いなく線質もしっかりしている。



鳥羽祥鳳 真面目で穏やかな作。



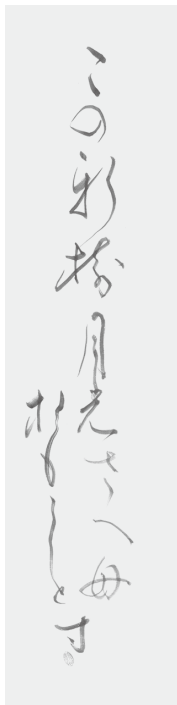
岡村清連 独特のタッチの書風。中央をあけると更によくなる。



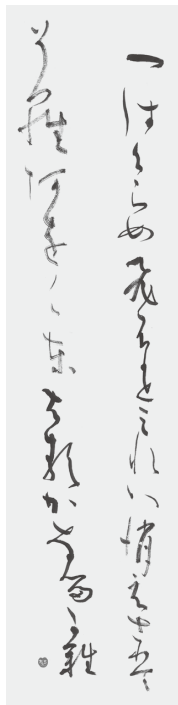
錦織満男 大らかで明るい作。



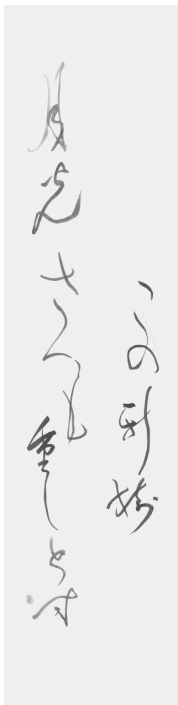
種村みや子 難なく書き、終句の墨つぎが効果的。



引場琴川 清らかで優しい作。



金城翠苑 濃墨でしっかりと書けているが終句が下がりすぎ。



中村萬徑 さわやかで涼しげな作。